

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年2月16日(2006.2.16)

【公表番号】特表2001-527026(P2001-527026A)

【公表日】平成13年12月25日(2001.12.25)

【出願番号】特願2000-526117(P2000-526117)

【国際特許分類】

A 01 N 43/90 (2006.01)

【F I】

A 01 N 43/90 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月15日(2005.12.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】活性成分としての遊離形または農芸化学的に有用な塩の形のマクロライド化合物と、少くとも1つの助剤とを含む農薬組成物を、有害生物またはそれらの環境に適用することを特徴とする、形質転換の有用植物の作物における有害生物を防除する方法。

【請求項2】アバメクチンを使用することを特徴とする請求項1に従う方法。

【請求項3】エマメクチンを使用することを特徴とする請求項1に従う方法。

【請求項4】形質転換の植物が処理されることを特徴とする請求項1に従う方法。

【請求項5】有用植物の形質転換作物がトウモロコシであることを特徴とする請求項1~4のいずれか一つに従う方法。

【請求項6】有用植物の形質転換作物が大豆であることを特徴とする請求項1~4のいずれか一つに従う方法。

【請求項7】形質転換有用植物の繁殖材料が処理されることを特徴とする請求項4に従う方法。

【請求項8】植え付けまたは種蒔きのサイトへの植物繁殖材料の植え付けまたは適用と空間的に近接して、または空間的に一緒に、活性成分として遊離形または農芸化学的に有用な塩の形での少くとも1つのマクロライド化合物と、少くとも1つの助剤とを含む農薬組成物を用いることを特徴とする、有害生物による攻撃に対して植物繁殖材料および後の時点での成長する植物器官を保護する方法。

【請求項9】その活性成分が遊離形のアバメクチンであることを特徴とする請求項8に従う方法。

【請求項10】使用される活性成分が、遊離形または塩の形のエマメクチンであることを特徴とする請求項8に従う方法。

【請求項11】繁殖材料が実生、根茎、苗床植物、カッティングまたは種子であることを特徴とする請求項8~10のいずれか一つに従う方法。

【請求項12】植物繁殖材料が種子であることを特徴とする請求項11に従う方法。

【請求項13】その有害生物が鱗翅目の代表的なものであることを特徴とする請求項8~12のいずれか一つに従う方法。

【請求項14】その組成物で前処理された繁殖材料が、植え付けまたは種蒔きのサイトに植えまたは種蒔きされるように、その組成物が使用されることを特徴とする請求項

8 ~ 13 のいずれか一つに従う方法。

【請求項 15】 繁殖材料の前処理が種子粉衣であることを特徴とする請求項 8 ~ 14 のいずれか一つに従う方法。